

神のエコノミー

「時代の満了時のエコノミーに
至るためです」

(エペソ人への手紙第1章10節)



神に一つの計画があります。この計画は、宇宙の中でも特に人ととても大きな関係があります。この計画は、聖書の中で「神のエコノミー」と呼ばれています。神のエコノミーとはおもに人に対する神の計画全体のことで、神が人を創造された目的、すなわち人が生まれ、存在する意義、人生の目的、さらには人の終局について明確に解き明かします。人が祝福に満ちた満足のある人生を願うのであれば、必ず神のエコノミーが開かれなければなりません。

「神は言われた、『われわれのかたちに、われわれの姿にしたがって、人を造ろう』」(創世記1章26節前半)。神は人をご自身のかたちに造られました。手袋は手のかたちに作られます。それは手を入れるためです。同じように、人が神のかたちに造られたのは、神を入れるためです。人はこのように「神を入れる器」として造られたので、神以外のもので人を満足させることはできません。器としての人は霊、魂、体の三部分から構成されています。人の最も深い部分である霊は、霊である神に接触し、神を受け入れ、神を保持するための器官です。ですから、神はまず人の霊の中に入り、人の内容とならなければなりません。こうして、神は人の真の満足となることができます。これこそ人が生まれ、存在する意義です。

しかし、器としての人は墮落し、罪によって汚されました。その結果、人は神を入れることができなくなりました。そこで、神は肉体と成り、人として地上に来られました。この方が主イエス・キリストです。彼はまず十字架上で人の罪と汚れを取り除き、次に三日目に復活して「命を与える霊」と成られました。人が主イエスを信じ受け入れるなら、彼はその人の霊の中に入り、神を命として分与します。さらに、彼は神を霊から魂へと広がらせ、最後に霊、魂、体すべてに神を満ちし、神を浸透させます。聖書はこれを「栄光化」と言っています。このようにして、人は命として神の中で成長し、造り変えられ、神格においてではなく命と性質において神と同じとなり、地上で神を内側から輝かし、表現する存在となります。これこそ神があなたのために定められた計画です。これこそ人生の目的であり、主イエスを信じてクリスチャンとなる意義です。